



障がい児の
移動支援

多摩格差

くつきり

どの地域でも同じように行われるように！

アオヤギ有希子質問



八王子市内の障がいのあるお子さんの保護者の方々から「学校に行くにも付き添いが必要」「シッターを朝雇うと、2千円かかる」「小さいころからヘルパーを使って街を歩けるようにし、障がい者への理解を深めてほしい」との声が寄せられています。

区市町村の障がい児の移動支援の実施状況を調査したところ、大きな多摩格差があることがわかりました。



▼障がい児の通学に移動支援が使える区・市

多摩地域 4市のみ
その他3市が条件付きで実施

23区 22区

23区の自治体では、月46時間を使えるようにしている自治体も。

▼小学生の移動支援の実態

多摩地域 3市が不可
八王子は不可

23区 全区が可

障がい児に対する区市町村の移動支援の実施状況▶



日本共産党都議団のアオヤギ有希子は6月14日一般質問に立ち、障がい児が利用するガイドヘルパー制度、移動支援事業に都が力を尽くすように求めました。

佐藤福祉保健局長は「都は国に対し、本事業が単独での外出が困難な障害者等に必要なサービスであることを踏まえ、**全国一律の基準に基づいて自立支援給付として位置付けることを提案要求している。**」と答えました。

この答弁は都も移動支援はどの地域でも同じように行われるべきと考えているということであり重要です。また、都が

費用の1/4を負担する意思があるということの意味です。もし自立支援給付となれば、利用実績額の1/2が国、都1/4、市1/4という負担になり、安定的に事業が実施できます。秋田県、京都府、鳥取県、島根県、長崎県では、国に先駆けて移動支援事業に「実績額の1/4」を補助しています。

都も国に要望しているのですから、区市町村に1/4補助をしていくべきです。



5月、練馬区で移動支援事業のききとり
右から里吉、アオヤギ、原のり子都議

受け入れを6年生までに

もっと補助金*を活用して
学童の
充実を

都内学童受け入れ状況はこちら▶



*補助金：「学童クラブにおける医療的ケア児等受け入れ支援事業」

八王子市の学童保育所(以下学童)の受け入れは、小学3年生までが多く、障がい児は小学4年生までが多いという実態が報告されています。そんな中、特別支援学校に通う障がい児の保護者の方々より「地元の学童に6年生まで入れるようにしてほしい」という声が寄せられています。八王子市では6年生まで受け入れてい

ない学童も多いため、申し込めない4年生以上は待機児にカウントされず、待機児が見えづらくなっています。

都には学童の待機児解消、障がい児の受け入れのための補助金があります。補助金を利用し、自治体が障がいのある子もいない子も学童に行けるようにする必要があります。



つけよう

学校体育館 エアコン

アオヤギ
質問

教育長 エアコンの設置の目的は

「**良好な教育環境等が確保されるよう**」

八王子市は体育館エアコン設置率が14.3%と低いうえに、「防災目的の設置」だとされ、日常の教育活動に子どもたちが使うことができません。それに対し都の教育長は、エアコン設置補助について

「**良好な教育環境等が確保されるよう区**

市町村に早期の設置を働きかける」と答弁しました。八王子市が、体育の授業などで使うことを認め、全校設置を進めるように働きかけていきます。

また、令和5年で都の補助が終わる予定のため、補助の延長を求めました。

問題山積! 都立高校入試



アオヤギ
質問

都民の運動により **ベネッセ撤退へ**

2022年11月に公立中学3年生 約8万人を対象に行われた英語スピーキングテスト（ベネッセが作成し、東京都が監修）の点数を、都教育委員会は都立高校入試の点数に加算しました。

しかし、**多くの子ども達や保護者、専門家のみなさんが「入試に活用すべきではない」と声を上げました。**アオヤギ有希子は昨年から4回にわたり、文教委員会でこの問題を追及してきました。都議会ではスピーキングテスト活用を反対する超党派の「英スピ議連（42人）」も結成されました。

そして次期の事業者募集でベネッセは応募しませんでした。こうした都民の運動が、今回のベネッセ撤退につながったと言えます。

次期事業者が担うのは、今年の1・2年生と来年度からの1～3年生のテストですが、下記の問題を解決できる保証はどこにもありません。

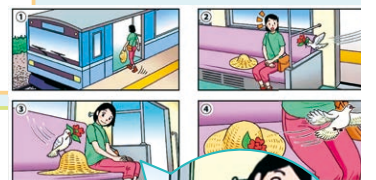
また、**撤退したもののベネッセとの契約は今年度いっぱい続いています。改善されないまま今年のテストを中学3年生に受けさせるわけにはいきません。**引き続き、みなさんと力を合わせがんばります。

英語スピーキング テストは中止を!

(ESAT-J)

子ども・保護者からの多数の証言があったにもかかわらず、都教委は「解答に影響の与える事例はなかった」と結論付け、入試活用を強行。

物理的にESAT-Jを受けられない受験者がいて、その受験者には自分の実力とは関係ない点数が付与される。



都教委HPより抜粋

イヤーマフをしても隣の声が聞こえた。

テストのパートGでは、鳥が電車に入って花を帽子の上に置いていく場面を英語で話すという設問。中学生には難しすぎる。

問題の設問ごと、パートごとの点数がわからない。合計点しか出ない。

録音した音声に隣の人の声が入っていた。

都が行なった採点の再点検で8人の採点ミスが判明。どういう再点検内容だったのか不明。

成績データは4年間ベネッセが保存。個人情報なのに…自分の情報が開示されない!

試験監督が1日限りのアルバイトで、騒ぐ人を注意しない、など不慣れだった。

